いわての NPO・ボランティア活動情報誌
2024 vol.3

ぱいん PIN
Paper Iwate NPO

NPOのはじめの一歩！
「若者と地域をつなげる」！

- 連携事例集
- 「NPO× 行政」「NPO× 企業」
- ユース世代に聴いてみよう
- 岩手県からのお知らせ
- 岩手県社会福祉協議会／ボランティア・市民活動センターからのお知らせ
- 活動から生まれたもの紹介「いわてワカモノ図鑑」

いわて学生ボランティアネットワーク
輪島塗ボランティアの様子

特集

はじめの一歩！「若者と地域をつなげる」

start!

人口減少に伴って「若者のチカラを貸してほしい！」という要望が増えています。若者と地域、若者と若者をつなぎ、架け橋となる仕組みづくりへのチャレンジを紹介。

いわて学生ボランティアネットワーク

続けるためにつなげたネットワーク

「いわて学生ボランティアネットワーク」の名前を聞いたことがありますか？

岩手県内の学生同士の連携促進、学生の主体的なボランティア活動の活性化、地域と若者の相互のつながりを作ることを目的に活動している組織です。

その発足は2011年の東日本大震災津波がきっかけとなっています。大災害からの復旧・復興に向けて、県内で若者による復興支援活動や各大学にボランティアサークルが多く立ち上がりました。しかし、学生団体は卒業・進級によるメンバーの入れ替わりが不可避で、活動の継続や引継の悩みが生まれてきます。そこで、学生同士やボランティアサークル間で連携し、情報を共有する場が必要だという声が高まり、2015年に発足しました。

現在は、県内の高校生・大学生によるボランティアサークルが幹事団体となり、更にOBOGも交えた事務局4名が運営の中心を担っています。コロナ禍では行動制限により活動も大きな影響を受けましたが、学生と地域のつながり再構築のために今も奔走中です。

魅力的な活動の数々

具体的な活動は大きく3つあります。

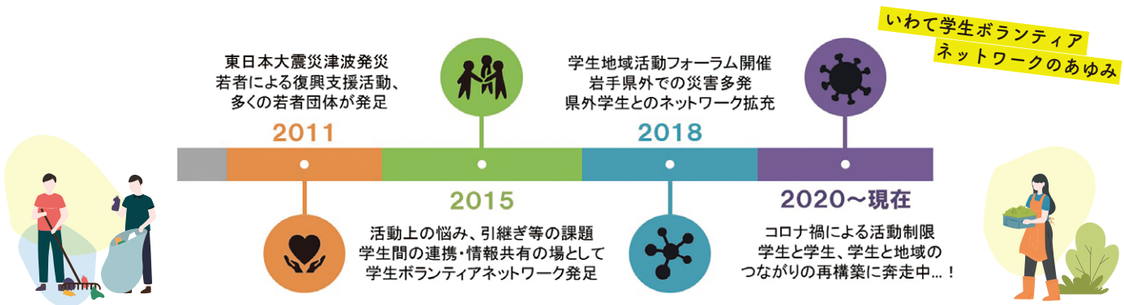
普段の取組

・連絡会…幹事団体間が定期的に集まり、情報交換やコラボ企画を検討。

・ボランティア声掛け…事務局が受けたボランティアの依頼（地域のお祭り、子どもと遊ぶイベント等）を、メーリングリストを通じて声掛けし若者に地域の活動に参加する機会を提供。

有事の取組

・県内や各地で自然災害が発生した際、状況に応じて自分たちにできる活動を行う。



例…2024年8月の盛岡大雨災害では、盛岡市内の被災家屋の泥出し等に延べ35名が参加。

独自事業

①週末ボランティアワークキャンプ…ボランティア依頼の中から、事務局が地域に詳細をヒアリングし、ネットワーク主催の週末を利用したプログラムとして実施するもの。内陸部に住む学生が沿岸部での活動に参加する際、移動の問題が発生するため、団体でも個人でも参加者の移動手段を主催者が確保することで、参加の一歩を後押しています。奥州市衣川北股地区での清掃活動や大槌町のNPOが実施する薪祭りなど、2024年は11回開催しました。

②盛岡さんさ街なかクリーン作戦…①の事業の一環として開始し、近年力を入れているのが盛岡さんさ街なかクリーン作戦。盛岡商工会議所と協力して、盛岡さんさ踊り後のゴミ拾いを企画・運営。2023年に一人の学生のアイディアから始まり、2024年は高校生・大学生など約60名が参加。元々商工会青年部有志によるゴミ拾いは行われていましたが、業者の清掃が入らない路地まで行うので、地域からも喜ばれています。

③いわてワカモノ図鑑…カラフルなデザインと紹介団体の多さが目を引く冊子を制作。こちらは裏表紙「活動から生まれたもの紹介」にも掲載しています。

現在事務局を務める小室祐人さんと木下実幸さんは、「若者が地域に飛び出して活動することは、参加してこそ得られる経験や出会いが魅力的です。同時に、若者と地域、お互いが気持ちよく活動できることがポイントです」と話してくれました。単純な人手の確保ではなく、双方向のコミュニケーションからお互いが楽しく取り組めるように、細やかなコーディネートを担っているのだと感じました。

発足から10年、今後も発展を期待しています！

いわて学生ボランティアネットワーク

ネットワークが開催する活動には個人でも参加することができます。
活動の詳細はＳＮＳでチェック！

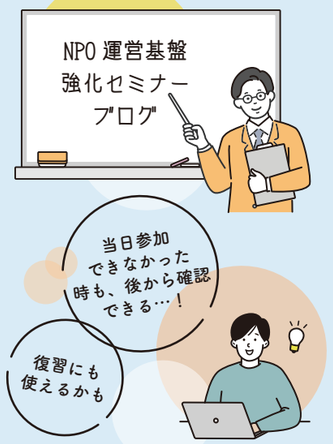
事務局：080-6010-3314
MAIL：iwate.stu.vol@gmail.com

Instagram　HP

NPO活動交流センター こう使おう！

セミナー開催報告ブログ

NPO活動交流センターでは、県内NPOのニーズや支援の必要性に合わせた「NPO運営基盤強化セミナー」を開催しています。2024年度からは開催報告ブログもホームページに掲載しています。セミナーに参加出来なかった方にも、各テーマで今後に活かせるヒントや学びを伝えたいとの思いで掲載していますので、ぜひご覧ください。



2024年度
第1回～第3回の
開催報告ブログ→

NPO活動交流センター
TEL：019-606-1760
MAIL：n-katsu@aiina.jp

岩手県NPO活動交流センター サイト→

連携事例集

Case study

地域課題の解決や社会貢献のための様々な活動について、NPO単独で行うのではなく、企業や行政と連携・協働することで新たな成果が生まれています。岩手県内のそんな事例をご紹介します。

事例1 地域を応援する新しい形

NPO×行政

西和賀町は、ふるさと納税によって特定の地域づくり団体への寄附を行うと、その団体にはふるさと応援地域づくり活動支援補助金として、寄附額の2分の1が交付される仕組みがあります。現在ある4つの指定団体のうちの一つがNPO法人深澤晟雄の会です。同会は、昭和32年に沢内村（現在の西和賀町沢内）村長となり、医療行政において老齢者や乳児に対する国保の十割給付を行う等、「村民の生命は村が責任を持つべきだ」と公約・実行した深澤晟雄の功績を発信する資料館を運営し、生命尊重の理念を後世に伝えています。

同会理事長の加藤和夫さんは、この仕組みによって、つながりのなかった方からも寄附が届いていると感じており、「17年活動を続けてきましたが、活動を支えてくれる方々も高齢化して直接の寄附や支援が減っていた中、新しい寄附者の獲得につながって嬉しい。同時にこれまでの寄附者にもふるさと納税での仕組みをPRしています」と話してくれました。

企画財政課の高橋和子さんも「地域で活動する団体・人たちへの応援の一つにしたい」との思いで担当しているそうです。

ふるさと納税は町出身者や返礼品への関心がきっかけであることが多いですが、町としても、寄附金の具体的な使われ方に関心がある方が一定数いるとの感触を得ています。実際に令和5・6年度と全体寄附額は増え、お金が何に使われるかが選ばれる要素にもなっているようです。

ふるさと納税を通じて地域団体と活動を知る、団体からふるさと納税をPRする、この相互の重なりが西和賀をより知ってもらう機会になり、団体にとって活動継続のモチベーションにも大きく寄与すると感じました。

ふるさと応援地域づくり活動支援補助金とは

地域活性化や地域課題解決を目的に公益的な事業を行う町内のNPO法人や地域づくり組織等に対し「ふるさと納税」を活用し、補助金として交付することで、各団体の事業の運営及び活動を支援し地域活性化を図るもので、西和賀町で令和5年度から実施されています。ふるさと納税で寄附の使い道に指定された団体には寄附金額の2分の1が交付されます。指定団体は町内から随時募集しており、団体の活動や財政状況などを確認した上で決定します。

ユース世代に聴いてみよう

Interview

ユース世代の活動とインタビューをお届けします

peace & voiceは2021年9月に大船渡の高校生を中心に発足し、戦争経験者の声を未来に語り継ぐ活動を行っています。

代表の小林さんは発足当時高校2年生。小学6年生で曾祖母から聞いた戦争体験に衝撃を受け、語り継ぎたいとの思いを持ち続けていました。高校での探求学習や同世代のリーダー塾でつながりが増え、校内と全国のリーダー塾メンバーに募集をかけて9名が集まりました。その時のメンバーは大学生となり全国に離れていますが、現在のメンバーは18名。そのうち11名が岩手出身で、さらにその中の3名は現役の高校3年生であり、小林さんの後輩にあたります。

戦争経験者の話を聞く中で、日本のどこかの話ではなく「大船渡にも確実に戦争があった」事実を突きつけられます。憤りを感じ、過去を変えることはできない現実にも直面しますが、みなさんが必ず話す「戦争の経験を語り継いでほしい」との言葉が、活動を続ける力になり、語り継いでみんなに自分事として捉えて欲しいと感じているそうです。

代表 小林友香さん

学生生活を楽しむことも大切で、この活動が重荷にならないようメンバーみんなのペースで進みたいと思っています。ただ、戦争経験者は現在80代以上、出兵体験を持つ方は100歳に近い方々なので、急がなければと思う葛藤もあります。今後もっと活動を発信して認知を広め、できるだけ多くの方から経験を聞きたいです。最終目標は戦争経験者の声を集めた本を作る事です。

ご自身の経験を話してくださる方がいらっしゃればぜひお知らせください。

活動発信中！

Instagram

peaceandvoice0912@gmail.com

事例2 柔らかな日常の中にある保健室

NPO×企業

一般社団法人ito（いと）
×
医療法人わげんホームケアクリニックえん

北上市の一般社団法人itoは、2021年から障がい者の自立と就労をサポートする多機能型事業所を運営し、2022年8月に建物の1階にカフェをオープンしました。コーヒーやオリジナルメニューを提供しており、事業所利用者の就労経験の場や、住民や地域と触れ合える場にもなっています。

このカフェでは2022年9月から毎週木曜11時～15時に「つむぎつなぐ保健室」を開催しています。医療法人わげんホームクリニックえん（以下、えん）との協働で継続する、地域の方々が暮らしや健康、医療、介護の相談ができる場です。ito代表理事の藤村千紗さんと、えんの医療ソーシャルワーカー櫻井茂さんは前職でつながりがあり、藤村さんが事業所立ち上げに伴って、えんにitoの関係医療機関（事業所のかかりつけ医）を依頼したことがきっかけでした。えんでは当時、「暮らしの保健室」をお手本にした活動を考えていましたが、訪問診療専門のクリニックであるための適当な場所がない状態でした。そこで、櫻井さんはカフェのオープンスペースが保健室に適していると思い、自院とitoにプレゼンしてそれぞれの了解を得ました。

「つなぎつむぐ保健室」はこの2年でゆっくり、じんわりと浸透してきています。日常の中にある場所として長く続けること大切にしているため、大きな告知はせず看板だけ出して櫻井さんが常駐します。相談者は10代から高齢者まで幅広いものの、たわいない会話の日、相談がない日もあります。櫻井さんは「人を集めることが目的ではないのでそれでいい。ただ、相談があった時には話を聞いてそれで終わりにはしない」と話します。その場で解決しなくてもどこ・誰につなげるかを意識しているそうです。

「お互いの持つつながりが合わさると解決できることが倍になる」との藤村さんの言葉が印象的でした。病気や障がいがあっても安心して暮らせる地域、日常の中に自然と福祉がある地域を目指す両者が持つ専門性と資源が重なった柔らかく温かな取組です。

暮らしの保健室とは

2011年、訪問看護師の秋山正子さんが「気軽に訪問看護や在宅ケアに出会える仕組みを」と願い、英国の取組を参考に高齢化の進む大規模団地の一画に開設した取組。地域の社会資源に詳しい看護や医療の専門家が常駐し、誰でも予約なしに無料で、健康や介護や暮らしの中での困りごとを相談できます。現在、日本各地でも広がり、ショッピングセンターの一画・空き家・地域の集会室・施設の地域交流スペースなどで、名前もみんなの保健室・まちかど保健室など様々な形で展開されており、つむぎつなぐ保健室はこの北上版です。

認定ＮＰＯ法人取得・更新情報

令和５年度から令和６年度にかけて認定取得・更新したＮＰＯ法人（10 法人）のうち、５法人を紹介します。

認定特定非営利活動法人　きたかみ市民活動基金

市民活動基金を創設し、市民活動団体の支援をとおして豊かな市民社会の創造に寄与する活動を行っています。

【認定期間】
平成26年３月５日
～令和11年３月４日

特定非営利活動法人
きたかみ市民活動基金
内閣府NPOホームページ→

認定特定非営利活動法人　盛岡ユースセンター

「すべての子供達が、自分に価値を感じながら笑顔で成長できる社会の実現」を目指し、小学生から20歳前後を対象に、フリースクールや高卒資格取得のサポートを行っています。

【認定期間】
平成31年３月14日
～令和11年３月13日

特定非営利活動法人
盛岡ユースセンターサイト→

認定特定非営利活動法人　桜ライン 311

東日本大震災で発生した津波の最大到達地点に桜を植樹し、後世への伝承として津波の記憶を伝え残す活動を行っています。

【認定期間】
平成26年５日１日
～令和11年４月30日

特定非営利活動法人
桜ライン３１１サイト→

認定特定非営利活動法人　いわて子育てネット

子育て環境の向上を目的として、子育てに関する情報提供や相談・コーディネイト事業等の活動を行っています。

【認定期間】
平成26年８月25日
～令和11年８月24日

特定非営利活動法人
いわて子育てネットサイト→

認定特定非営利活動法人　accommon（アコモン）

困りごとを抱えた子どもやその家族等に対して、悩みの共有、学習や体験の場の提供のほか社会的自立を支援する活動を行っています。

【認定期間】
令和元年９月５日
～令和11年９月４日

特定非営利活動法人
accommon サイト→

岩手県では、認定ＮＰＯ法人専門員による認定に関する制度説明、事前相談等を行っています。「認定取得に興味がある」「認定基準を満たしているか確認してほしい」など認定に関する質問がある場合には、お気軽にご相談ください。

認定 NPO 法人制度に関する相談窓口

岩手県 環境生活部 若者女性協働推進室
認定 NPO 法人専門員（月曜～木曜 8:30 ～ 17:00）

019-629-5199

福祉教育の取組紹介

遠野市社会福祉協議会の取組 ＜遠野高校との連携＞

遠野高校における「総合的な探究の時間」の取組に協力団体として参加し「児童を対象とした福祉教育プログラムの研究」を題材としたゼミを行いました。この活動はゼミ形式の活動であり、様々な企業・団体を講師として１年を通じて取り組まれます。

わかりやすく、伝わりやすい、新たな福祉教育プログラム

まず高校生の皆さんには既存のキャップハンディ体験を経験していただきました。体験を通して、「障がいがあってもなくても楽しめる」という視点を持った高校生たちは、小学生を対象としたプログラムには「どのような工夫が必要か」「小学生に何を伝えたいのか」を研究し、プログラムを作り上げました。最終的には、新たな「福祉教育プログラム」を地域の小学生に体験していただくことがでました。

高校生による若い視点で考えられた「新たな福祉教育プログラム」が実践されたことで、小学生、高校生それぞれにとっての学びの機会となりました。

ゲームを交えて
楽しみながら学ぶ「車いす体験」

障がいがあっても楽しめる
「ゲームの開発」

遠野ならではの
「ブラインドサッカー交流」

福祉教育について

社会福祉協議会では、「地域福祉の推進」をすすめるうえで、地域住民が地域や福祉について学ぶ機会の提供は重要であるとし、子どもたちの健全な育成を進めるとともに、地域住民の学びを通じて地域福祉の推進を図る、地域に暮らす全世代を対象とした「福祉教育」に取り組んでいます。

「福祉教育」は、「ふだんのくらしのしあわせ」をつくるための学びであり、身の回りの人々や地域との関わりのなかから、「ふだんのくらし」のなかにどのような福祉的課題があるかを自ら学び、課題を解決する方法を考え、解決のために行動する力を養うことで、ともに生きる力を育むことを目的としています。

（全国社会福祉協議会全国ボランティア・市民活動振興センターホームページ参照）

県内各市町村社会福祉協議会では、福祉教育やボランティアに関するイベントや研修・講座等を、企画・実施しています。（例：キャップハンディ体験、ボランティア養成講座、など）

地域、団体、企業等で、開催を希望する場合は、**最寄りの社会福祉協議会**へご相談ください。

お問合せ
岩手県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
TEL:019-637-4483　FAX:019-637-7592

ずっぱりボランティアいわてサイト

いわてのNPO・ボランティア活動情報誌
PIN ぴいん
2024 vol.3
令和7年3月25日発行　発行：NPO活動交流センター
〒020－0045　岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1いわて県民情報交流センター「アイーナ」6F
TEL019－606－1760　Fax 019－606－1765
PIN（ぴいん）は年3回、約2000部発行しています。

活動から生まれたもの紹介

活動の中から生まれた様々なモノがあります。そのストーリーや作る側の想いをご紹介します。興味が湧いたらぜひ実物を見に出かけてみてください！

いわて学生ボランティアネットワーク
「いわてワカモノ図鑑」

いわて学生ボランティアネットワークでは、2022年から岩手県内の若者団体（NPO・サークル・有志団体含）の活動をまとめた「いわてワカモノ図鑑」を発行し、冊子とデータで配布しています。2024年版では、「岩手県内の若者団体の取組を視覚化して若者が地域や分野を超えて連携し活動を発展していこう」との趣旨に賛同した70の団体を掲載しました。団体の強み、協力してほしいこと、連携ポイントも紹介されています。

この図鑑を通して実際の活動を伝えることで、ボランティアに興味を持っている・何か活動したいと感じている人へのヒント、具体的なアクションやそれぞれの活躍を広げる一助になればとの思いが込められています。「若者のチカラが欲しい」と思う地域や団体の方にも手に取って欲しい冊子です。

現在、2025年版を制作中です。写真を多用した特集ページも盛り込んで、これまでより更にパワーアップした内容で発行する予定です！お楽しみに。

いわてワカモノ図鑑 発行者
いわて学生ボランティアネットワーク
TEL 080-6010-3314

データ版はこちらから
ダウンロードできます→
いわて学生ボランティアネットワーク HP

NPO活動交流センターからのお知らせ

共用・フリースペース受付制

昨年秋から、アイーナ６階の**共用・フリースペースについて、混雑する時期に限り「受付制」**とさせていただいております。受付制の期間中にご利用の際は窓口での利用受付が必要となります。実施期間は変則的であるため、実施の1ヵ月前を目安に、NPO活動交流センターＨＰや館内掲示でお知らせします。すべての方に気持ちよく利用していただくために、ご理解、ご協力をお願いします。

時期により受付制へ

「NPO活動交流センターからのお知らせ」HP

編集後記

2024年度第3号最後まで読んでいただきありがとうございます。今回は、各コーナーの取材でお話を伺うなかで、ふと、「色が見える」と感じた瞬間が何度かありました。話して下さる方の熱意や思い、口調、連携事例の時には2者のやりとりなどから、浮かんでくるように色合いを感じました。ちょっと抽象的な感覚ですが、この色の感覚を伝えられるように原稿を頑張ろう！と思った瞬間でもありました（笑）。

今年度の発行は第3号で終了です。PINが紙面内容をリニューアルして制作担当となってから3年。早かったような長かったような気がします。来年度もどうぞお楽しみに。（N.S）